

いちかわTMOアドバンス講座
修了研究発表会

いちかわ情報ハブ構想

2018年7月14日

鈴木 雄高

報告の構成

- はじめに～本日お伝えしたいこと
- 自己紹介、経歴
- なぜ、いちかわ情報ハブをつくりたいと思ったか
- 情報ハブがない場合・ある場合
- 情報ハブの機能、使われ方のイメージ
- 課題・今後の展望

はじめに：

市川市で過ごす長い時間をどう生きるか？

■ 人生100年時代を市川市で生きる

- ・ 現在でも男性の1/4、女性の1/2が90歳まで生きる
- ・ 自宅と職場だけでなく、地域で生活する時間が長くなる

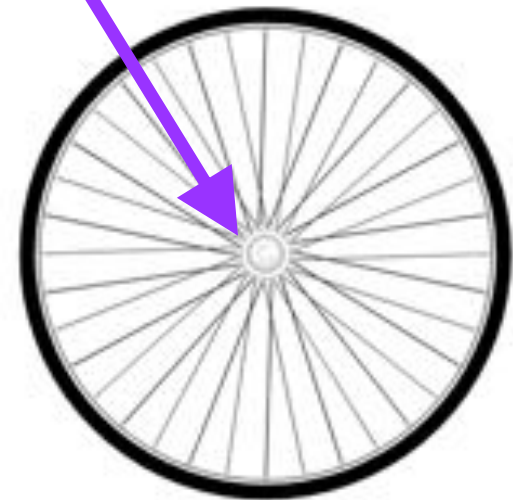
■ 人口49万人の市川市で生きる

- ・ 自分と同じ趣味や志を持つ人、
- ・ 同じ悩みを抱えた人や、乗り越えてきた人生の先輩、
- ・ 自分の技術や経験を必要としている人・・・がいるはず

**市川市で、人と知り合い、交流し、サポートし合える
人生を送りたくありませんか？**

本日お伝えしたいこと：
いちかわ情報ハブ構想

HUB (ハブ) とは車輪の中心部



人生100年時代、49万の市川市民が、地域で充実した生活を送るために、情報ハブとなる「WEBサイト」をつくります。
— 次のようなことを可能にします。

- **仲間を見つけて交流できる**
- **自分の課題を解決してくれる専門家や団体を見つけられる**
- **個人や団体の活動紹介をして広く知ってもらおう**
- **困りごとや悩みを相談できる**

自己紹介

- **0歳～現在（41歳）まで、ずっと市川市で生活**
 - ・ 行徳・南大野・妙典を経て鬼高在住 家族は妻と6歳の男の子
 - ・ 幼・小・中は市内、高・大・大学院は県内
 - ・ 就職してからは都内勤務（2002年～） 千葉都民17年目
- **長く市川市に住んでいながら意外と市川の事を知らない**（「大門通り」の存在を知ったのは最近・・・）
- 小中学校時代の友人はいるが・・・たまに会うだけ
- ✓ **3年越しの念願が叶ってTMO講座を受講！**

自己紹介（経歴）

- 東京理科大学大学院理工学研究科修士課程修了（2002年）
- 日本IBM、マーケティング関連企業を経て、
- 現在、流通経済研究所に勤務（主任研究員、2009年～）

- 専門：流通、マーケティング（特にマーケティング・リサーチ）
- 著書：「インスタア・マーチャンダイジング」（共著）
- メディア出演など：Wall Street Journal、日本テレビ、NHK、日経MJ、AERA、女性自身などでコメント

- その他：東洋学園大学で非常勤講師（2012年～）

自己紹介（経歴）

Wall Street Journal 取材記事(2018年)

“In an era overflowing with things, there’s less premium on ownership,” said Yutaka Suzuki, senior researcher at the Distribution Economics Institute of Japan. He said young consumers tend to sell their possessions as soon as they grow tired of them.

共著本(2016年)



日本テレビZIP出演(2017年)



なぜ

いちかわ情報ハブを
つくりたいと思ったか？

気づき：

市内で活動する個人や団体が多い

- TMO講座に参加して、
「市川市で活動する団体や個人が多い」ことに気づく

(NPO、企業、専門職、サークルなど)

- 認知度の向上や、新規利用者の獲得といった、「マーケティング」が苦手なことが少なくない

・「小さい会社は情報発信が苦手です」

・「自分の団体の活動を認知してもらうのは本当に大変」

——TMO講座 修了発表時の10期メンバーのコメントより

- ・ 市川市のボランティア・NPO web 掲載団体の53%
(191/359団体) はWebページへのリンク無し

(2018年7月3日)

気づき：

市内で遊ぶ・語る・活動する仲間が少ない人も多い

- TMO講座の参加者は・・・
 - ・ 市内で活動しているが、課題を抱えており、解決の糸口を得たい（前出）
 - ・ 自宅と職場を往復する生活に疑問を感じ、**地域で何かしたいが、知り合いもおらず、どうしてよいかわからない**（例えば私自身）

気づき：

情報を発信する媒体は多い

- 子供の誕生以降、市川市に対する関心が高まる
→ 市川市の情報を探すようになり、

「市川市について情報発信する媒体・個人が多い」
ことに気づく

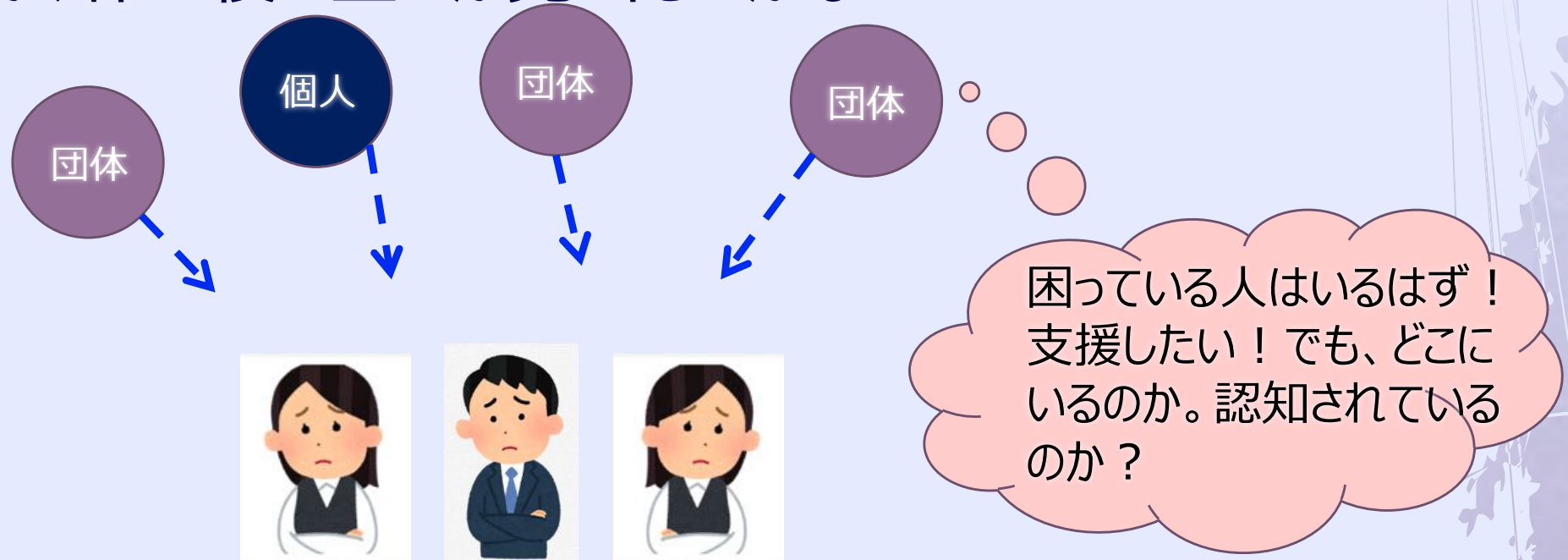
- ✓ **SNS** (Twitter, Facebook) で市川市の情報を発信するアカウントをフォロー → 写真と文章で場所・店・ニュースを知る
- ✓ **広報いちかわ** → TMO講座を知る、芳澤ガーデンギャラリーの催しを知る、行政の動きを知る
- ✓ **ちいき新聞** → 古本屋カフェアトリエローゼンホルツを知る

- ・ 他にも市内で育児についてブログやSNSで情報発信する人などを知る

**いちかわ情報ハブが、
ない場合**

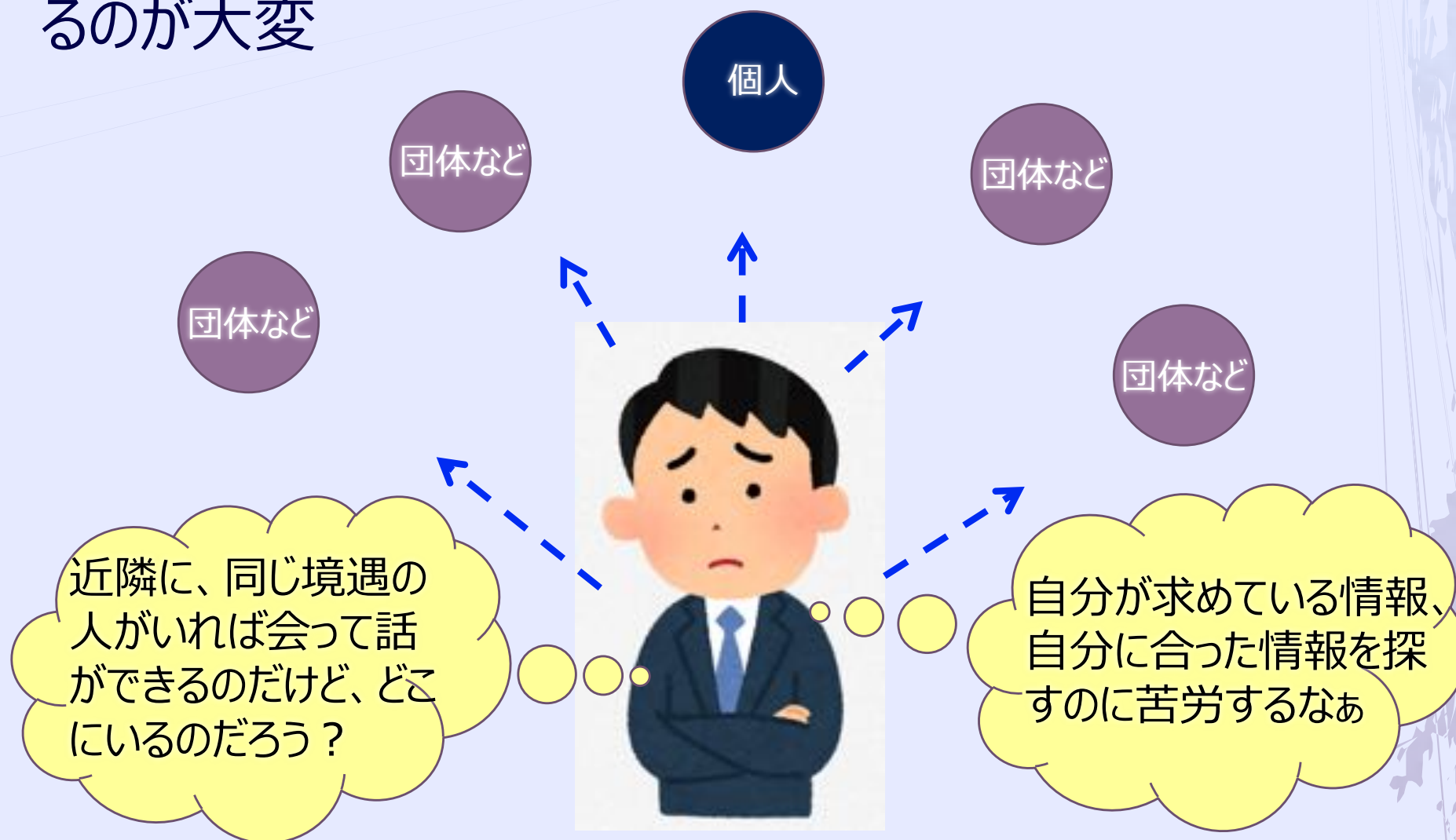
活動している団体・個人：情報を欲しがっている人を探すことができない

- そもそも知ってもらえてないのではないか？ 認知されていないのでは？
- 技術や知識を、地域で役立てたいと考えている個人もいるが、誰の役に立つか見当もつかない



課題を抱えている個人：情報を探すのが難しい

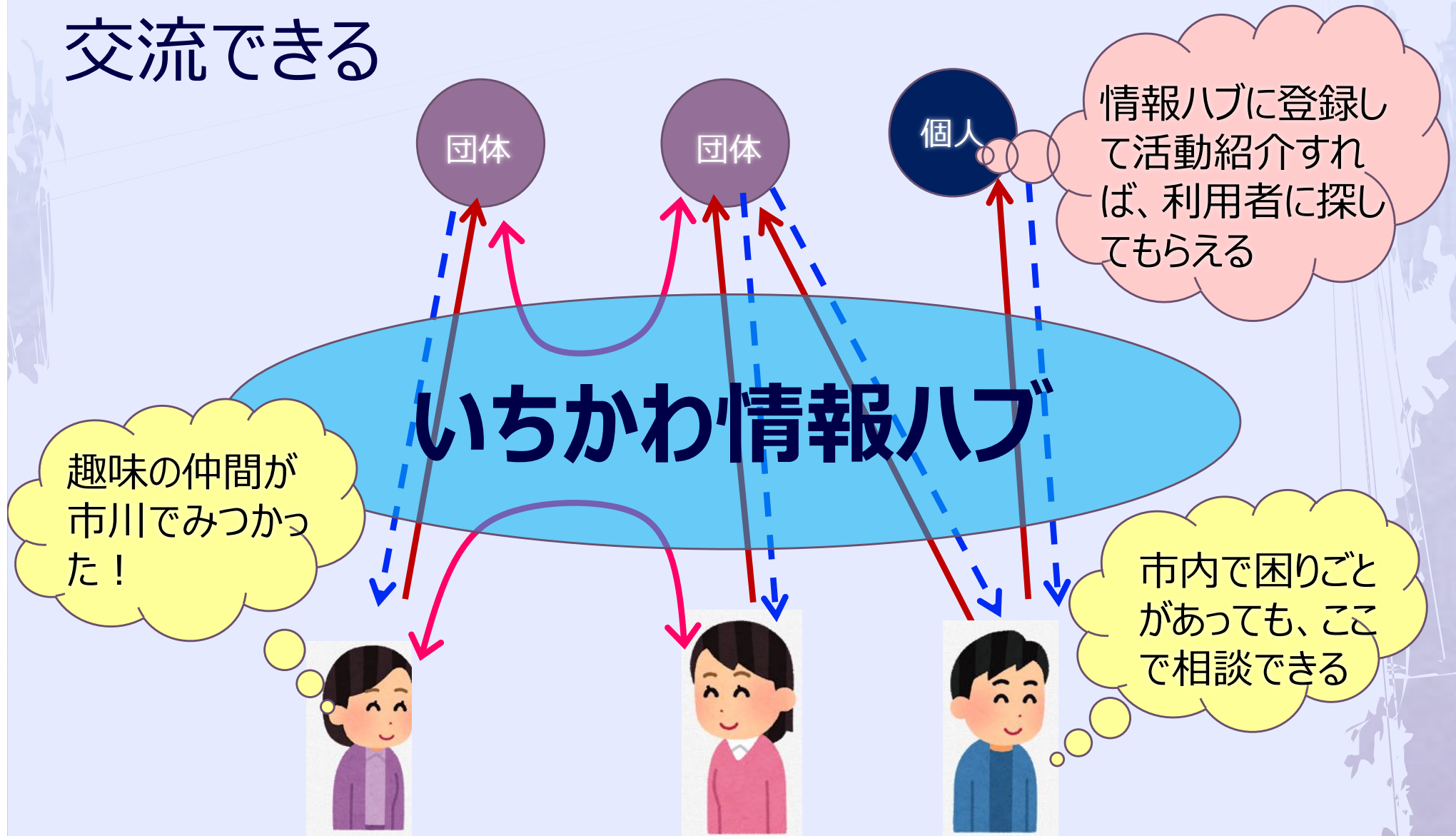
- 市内の団体や個人のサイトなどを探して1つずつアクセスするのが大変



**いちかわ情報ハブが、
ある場合**

情報ハブがあると

個人と団体、同業・異業種の団体同士、同じ趣味や志、課題を持つ個人が、互いを見つけて交流できる



情報ハブ（Webサイト）の機能

- ・ 書き込み、情報掲載には、利用者登録が必要（無料）
- ・ 閲覧だけなら、登録は不要（登録者のみ閲覧可の情報もある）

1. 「おしらせ市川」

- 市内で活動する団体・個人（NPO、企業、サークルなど）が、直近の活動予定などを告知したり、活動紹介できる。WebページやSNSへのリンクも貼れる。
- 市民は、ここから個人・団体のWebサイトを訪問したり、連絡を取ることができる。
- 市内で活動する団体・個人は、新たな利用者に認知してもらえる。

2. 「おしえて市川」

- 匿名で質問、相談、悩みを書き込める。これに対し、個人や団体がアドバイスや情報提供をすることができる。閲覧者は質問＆回答の履歴からも解決のヒントを得られる。
- 市内で活動する個人・団体にとっては利用者ニーズの発見の場にもなる。

1. おしらせ市川

■ 市川市で活動する団体・個人の活動紹介

- ・ 審査を通った団体・個人は、活動紹介ページをつくれる
 - Webページを持たない団体にとって貴重な情報発信の場となる。Webページを持つ団体はリンクを張ることができる
 - 基本の情報掲載は無料（一定以上の情報掲載は有償）
- ・ 活動予定（イベント実施、参加者募集など）を告知できる
- ・ 情報ハブ訪問者に対する簡易アンケート機能を安価で利用できるようにする（登録者がマーケティング・ツールとして活用できる）

1. おしらせ市川

■ 情報発信をしている媒体の紹介

(紙媒体は入手方法、SNSなどWEB媒体は閲覧方法を説明)

- ・ 紙：広報いちかわ、ちいき新聞 など
- ・ Web：市川市公式（サイト、Twitter、Facebook）、市長からの情報（サイト、Twitter）、市川いいね倶楽部（Facebook）、市川にゅーす（サイト、Twitter、Facebook）、市川マガジン（サイト、Facebook）、本八幡bot（Twitter） など

※情報ハブは、これらの媒体と競合するものではない。むしろこれらの媒体の認知を高め、紙であれば読者増、Web系であれば閲覧者増を通じ、市民により市川市に親んでもらうことを目指す

2. おしえて市川

- **登録した利用者が、匿名（ニックネーム）で、質問・相談・悩みなどを書き込める**
 - ・ 書き込む際は居住地（例：行徳、南大野、鬼高）を記入することを推奨
→ 登録している団体などにとっては、その悩み・課題を抱えている個人が、どのエリアに住んでいるのかを把握できる
 - ・ 書き込む際は内容に応じて、**分野**を選択する（複数可。例：介護、健康、お金、育児など）
 - ・ 情報ハブ登録団体は、自らの活動に関連する**分野**の書き込みがあった際に、団体のメールアドレスなどに「○○関連の書き込みがありました」とメッセージが届く仕組み（対応漏れ防止）
- **登録した利用者（個人・団体）が回答を書き込める**
 - 要検討：質問者は最もよい回答者を評価する（ポイント付与）ことで、回答することのインセンティブを与える

2. おしえて市川

■ 質問の分野（例）

- ・ お金、家族、健康・病気、介護・福祉、出産・育児、仕事・働き方・キャリア、遊び、芸術、スポーツ、政治、学び

■ 質問に対して的確な回答がない場合もある

- ✓ 解決の糸口さえ提示されないもの = **顕在化していなかった課題**として事務局（鈴木雄高）が把握する
- ✓ 質問者には、事務局が応答。情報ハブ登録団体などに対して、支援・対応ができないか打診。**課題解決に向けた動きをつくる**
 - ・ このような未対応案件が蓄積されたら、市川市に対して提示して、このような課題があることをご理解いただくことも想定

■ 質問と回答のセット（Q & A）が蓄積される

- ・ 自分で書き込まずとも、「よくある質問」を参照するだけで課題が解決するケースもある

使われ方のイメージ（一例）

大町在住 Aさん

- 話題の「こども食堂」、市川市にはどこにあるだろう？
 - 京成・総武線・東西線の沿線に拠点があるようだけれど、市川市の北部にはないのかな？ そうだ、「おしえて市川」に質問してみよう
- 質問：大町エリア～大野エリアのあたりに「こども食堂」はありませんか？**

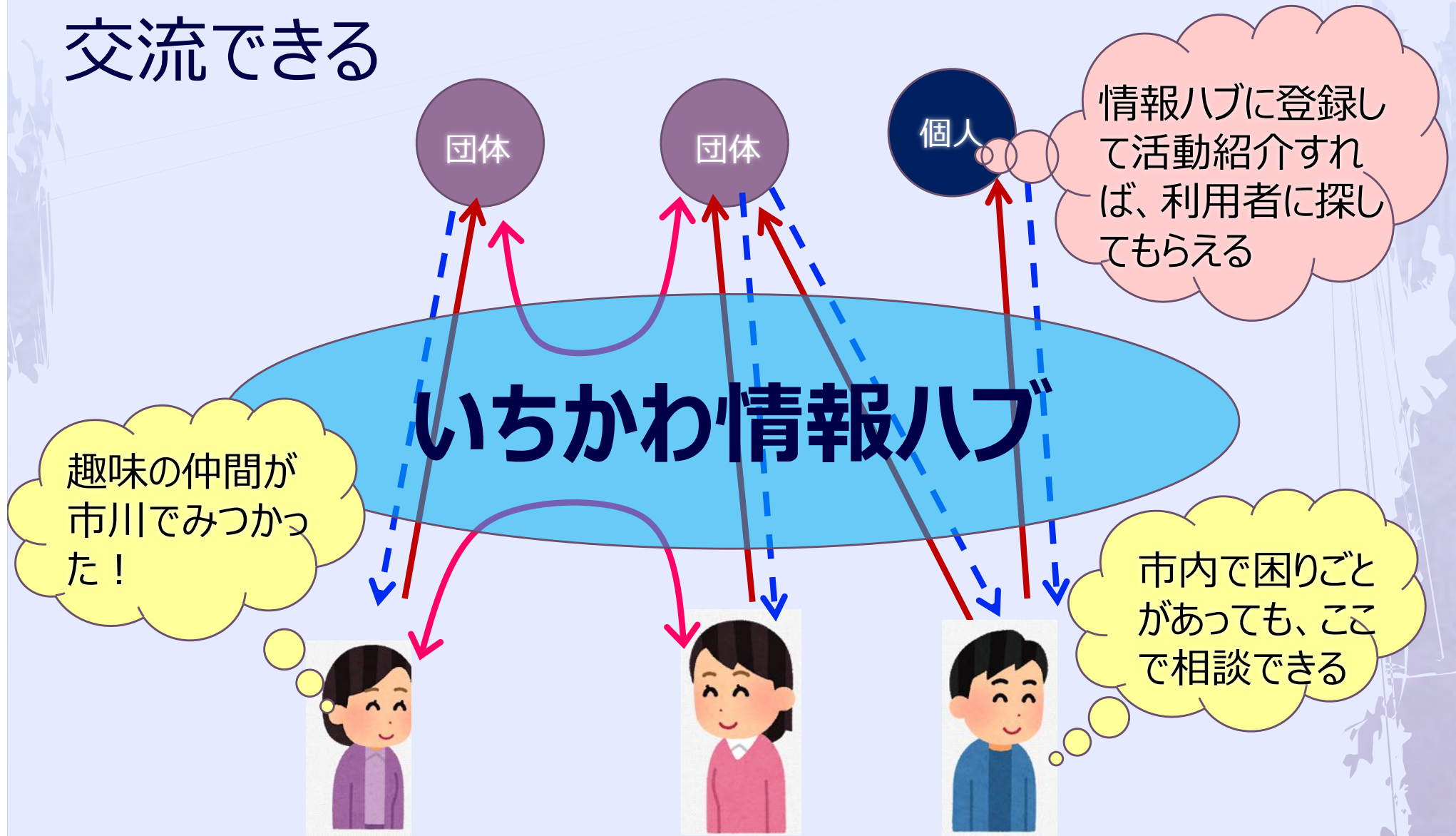
登録団体や個人が回答をする

例：「現状、北部では実施していませんが・・・」「私はこども食堂を運営することに関心があり、北部での実施を検討しています・・・」など

- ✓ 市内のどのエリアに、どのような顕在化していなかったニーズがあるかを把握できる（新たな展開へのヒントになる）

再掲：情報ハブがあると

個人と団体、同業・異業種の団体同士、同じ趣味や志、課題を持つ個人が、互いを見つけて交流できる



課題・今後の展望

- WEBサイトの運営資金は広告収入
 - ・ そのためにはアクセス数を増やすことが条件
 - ・ 常に魅力的な情報が更新、蓄積されることが重要
 - ・ 情報ハブに登録したまま、情報更新せずに放置するようなことがないよう、対策を講じる
- TMO講座修了生にハブ構想の説明をし、情報ハブに初期登録をしてもらえるよう、打診する

ご清聴ありがとうございました